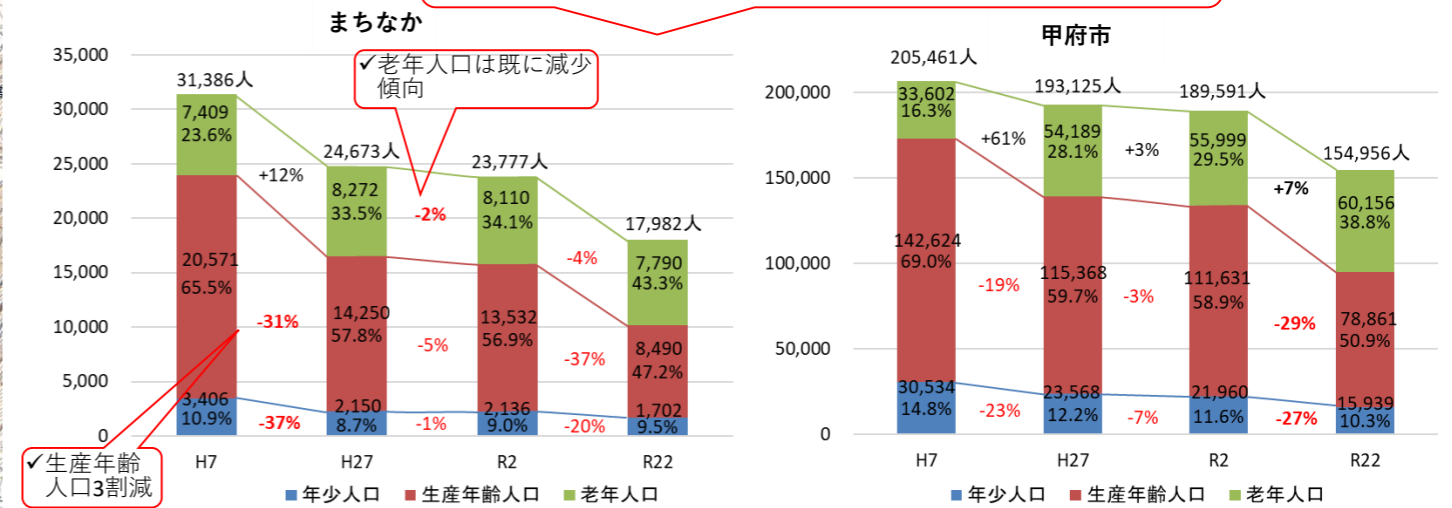


まちなかエリアの特性

- 人口減少、少子高齢化、空き家の増加、子育て世帯の不足
→ 全市に先駆けた居住機能と地域コミュニティの衰退
- 商業施設・事業所の減少、歩行者量減少、地価下落
→ まちの賑わいに貢献してきた機能の喪失危機
- リニア開業による交通要衝機能の低下危惧
→ 消極的動機から積極的動機への転換が必要
- 職住遊学、自然環境の近接、健康的に歩いて暮らせる、周辺（市内外・首都圏）へのアクセス性 → 空間特性（強み）
- 再整備された公共空間などの官民の豊富なストックと予定される大規模事業
→ 豊富な資源
- 山梨県の政治・経済・文化の中心
→ 歴史的背景を踏まえた普遍的役割

● 年齢構成別人口推移

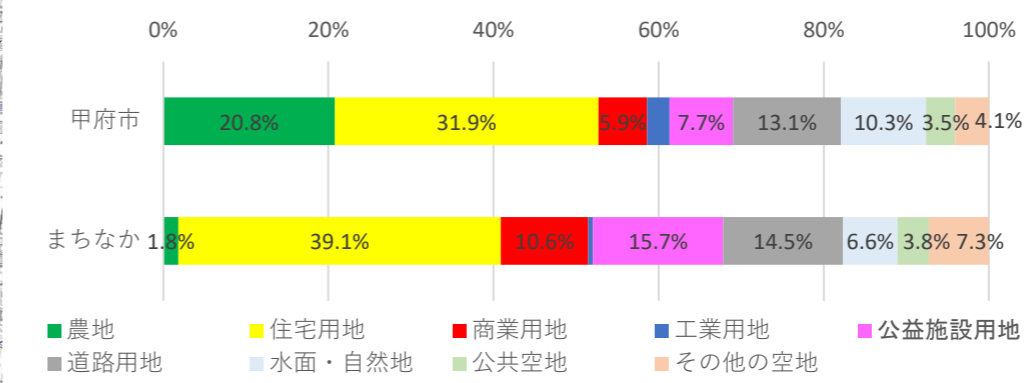
✓ エリア内の人口はH7→R2にかけて約2割減少し、今後も減少見込み
 ✓ 特に生産年齢人口の減少率が高く、R22には人口の半数を割る見込み



✓ まちなか全体としては、人口が減少しているが、駅周辺のマンション開発の進む地区では、近年人口増加が見られる

出典：H7～R2：国勢調査、R22：社人研推計値

● 土地利用状況



※山林を除く、甲府市は都市計画区域内のみ
 出典：甲府市都市計画基礎調査

まちなかエリアは、公共関連用地の割合が、市平均に対して高い

● 空き家数と空き家率

| | 空き家数 | | 空き家率 | |
|------|-------|-------|-------|-------|
| | H29 | R3 | H29 | R3 |
| 甲府市 | 3,008 | 3,391 | 3.96% | 4.46% |
| まちなか | 695 | 781 | 5.34% | 6.00% |

市全体の空き家の23%がまちなかエリアに分布し、市全体より空き家率が高い

出典：甲府市空家等実態調査報告書

※まちなかエリアのデータは、6地区（朝日、新紺屋、穴切、春日、富士川、相生）の町丁目別データの合計値

